

なかなか伝わりませんが・・・

メラビアンの法則

2019.02.20

No.52

校長 渡邊 幸二

だいぶ昔のこと・・・。NHKだったと思うのですが、コミュニケーションを話題にした番組があり、相手にはどういう方法だと、どれくらい伝わるかということをお話していたように思います。確かその研究によると、こういう紙ベースの「文字」のような媒体は伝わりにくく、確か伝わる確率は一けたのパーセンテージだったと思います。そんな話を先日、E先生としていました。気になって調べてみると、それは「メラビアンの法則」というらしく、

情報を得るところ	情報が与える影響
言語情報 (Verbal : 言葉や内容)	7%
聴覚情報 (Vocal : 口調や声のトーン)	38%
視覚情報 (Visual : 目から受け取る情報)	55%

という結果なのだそうです。

ですから「見た目」、つまりぱっと見やその方の話すトーンが伝わるのであって、中身が伝わっていると思ったら大間違いといえるようです。以前紹介した竹内一郎氏の言うとおり「人は見た目が9割」なのでしょう。この「校長室だより」だって同じことで、みなさまに伝わる確率は7%という世界なのでしょう。

この法則は、よく就職活動の面接に向けての話として引用されるらしいですが、先生方の授業にしても、子どもたちの話にしても言えることではないでしょうか。登下校で子どもたちが言っている「おはようございます」にしても「さようなら」にしても、また、われわれが職員室で発している「こんにちは」「お疲れさまでした」にしてもです。私たちの発している中身「オハヨウゴザイマス」が伝わるのではなく、明るいトーンや笑顔でのイメージが伝わっていくということです。あいさつしない、反応しないというのは問題外ですが、パソコンをにらめながらの気の抜けた声でのあいさつもまた悪いイメージでしか伝わらないということでしょう。



どうしたらいいですか？

インフルエンザがまた流行し始めました。これ以上拡大しないよう、手洗いや活気など、共通に取り組むことを確実に実施していただきたいと思います。

前日までの教頭先生とのやり取りで、おそらく月曜日の朝はかなりの人数が休みそうなことはわかっていました。ですから、職員室で教頭先生から「今日の全校集会は中止します！」

と言われた時も、そりゃ当然の判断だろうなと思いました。細かく言えば、教頭先生は最終判断者ではないので

「今日の全校集会は中止と考えましたが、それでよろしいでしょうか？」
という言い方のほうがベストではとお伝えしましたが、判断の方向性としては全く間違っていないでした。

私はみなさんに、「ラストマン（＝最終決裁者）」として、そして実践の最先端にいる者として、学校の方針と一致しているのであれば多少のことは自分で決めて実践して欲しいと言いました。もちろん、実践の一步前に報告したり、事後報告という形で後日指導を仰いだりということはあるかもしれませんが、基本的には「ラストマン」として、自ら考え、自らの力で教育を推進していく主体者であって欲しいと思っています。これは、学校経営方針にも述べたとおりです。

ですから今朝の教頭先生の仕事はまさに「ラストマン」として行動していたわけです。

一番いけないのは、

「〇人も休んでしまっていますが、どうしたらいいのでしょうか？」

というスタンスでの仕事です。これは教頭としては**職場放棄**の行為ですし、例えば養護教諭といったその方面の担当者であったとしても自分の考えを持ち合わせていない、かなり**残念な仕事ぶり**と言わざるを得ません（もちろん緊急対策会議でも集まった先生方は堂々と自分の考えを主張してくれました）。

この「どうしたらいいのでしょうか？」は、すべて他人任せで、脳みそを他人に預けている状態と言えるでしょう。授業づくりでも学級づくりでも、「〇〇さんが言ったからやる。」「～に書いてあったから・・・」というだけでは、これと似た思考停止状態だと考えられます。子どもたちがネット上の情報を鵜呑みにしている状態と同じでしょう。

自分で考えず、人任せ、他人任せですから、失敗してもそれは他人の所為で、しっかりしたふり返りも、もちろん成長もしないで終わります。もったいないし、残念な話です。「これなら今学校がめざしている方向と同じだな！」ということでしたら、どうか遠慮なく自ら考えた実践を推し進めてみてください。



昨日は、年度末の忙しい中、森田先生をお迎えしての授業研究会、おつかれさまでした。授業提案をしてくださったJ先生、H先生。ありがとうございました。